

＜この会社の設立動機＞

1. 地域の空き家

(1) 不在になった生家

(問題) 利用方法

(課題) 旅館業・民泊・飲食店などを検討

(2) 生家周辺の空き家

(問題) 増えていく不在住宅による衛生面、安全面の不安

(課題) 空き家について当社（住宅宿泊管理業者）が所有者と住宅宿泊管理受託標準契約書を契約し、空き家の再利用を行う。

(ヨーロッパのイタリアで起こった過疎化対策「分散型ホテル(アルベルゴ・デフューゾ)」の考えを取り入れる)

(3) その他景観対策など

2. 農業の事業承継問題と農業の継続困難性

中山間地の農地を親から承継するが、3年以上放置したことで荒れ地となったため、かつての農地に復活するには膨大な労力と時間がかかった。いったん荒れた農地は、復旧が難しい。

大農機具（トラクター、コンバイン、田植え機等）は、故障が多く、多額の修理費が継続してかかる。

計画的に利益を獲得する方法を検討するが、自然相手であるため計画と実績で乖離するリスクが高い。

中山間農地の作業（畔の草刈りなど）は、膨大な作業時間と機械の燃料代・修理代などの管理のコストがかかることから、平地の農地とは違い、経済性と効率性に観点から不利である。

野生動物による食害で農作物収益が消える。etc

今後持続可能な農法の研究を行いながら、以下の問題と課題に整理し、実践を行う。

(1) 農産物の安全性確保

(問題) スーパーで取り扱っている輸入農産物や食品については、食品表示の集約表示ですべてを網羅する必要がないなど、安全性の確認が難しい状況であるとともに、消費者の選択にその責任が委ねられることとなった。

(課題) 中山間地である親から引き継いだ農地を使い、川の上流地域一帯を保有し、水資源を有効に活用し、化学肥料や農薬のドリフト等に影響が少ない特性を生かすとともに有機農法により、自社にて安全安心な農産物をつくる。(ただし、鳥獣被害もあるため、被害が出にくい農産物を生育する。)

作った農産物は、一部加工品として加工・製品化を行い、食品の安全衛生上の表示義務は

積極的にポジティブリスト表示を遵守する。

（２）科学肥料・農薬を使った慣行農法による世界的規模の土壌減少（栄養不足の農地増加）対策

（問題）化学肥料や無機農薬による農地の栄養不足（微生物不足）

（課題）田畑毎の土壌診断を行い、不足した肥料の施肥をするとともに太陽光養生処理などを駆使し、ふかふかな土壌を作ることで農産物の発育を促す。また、本来のその土地

（農地）にあった農産物を選択し生育する（適地適作）

（３）コスト低減と販売増加、販売戦略と実践・調整

（問題）農業コスト増大による生産者の利益の減少。規格外農産物の廃棄。農業事故の発生。未熟な販売スキル。

（課題）農業機械のメーカーを絞ることで農機具利用上の安全性を確保とともに機械の操作スキルの維持を行う。

肥料・農薬は、必要最小限の購入とし、できるだけ自社で作成したものを利用する。主に規格外農産物の当社飲食店利用を行う。

農産物の販売方法について原料単位を基本とするものの、半加工品、加工品についての販売も検討する。

販売先について大型ショッピングモールや直売所、相対による業者取引やインターネット販売など多様な販売方法を検討する。

3. 文化的社会的活動

（１）郷土の衰退

（問題）外国人による地元秋月地区の土地・建物購入。失われていく歴史的史跡・保存会等の人員減少

（課題）現在・未来に向け、朝倉市秋月に残された歴史資産（史跡・文化）を保存する活動を支援する。

（２）農林業の価値

（問題）農林業の生産者減少。猛暑による過酷な労働。農業関連の知的財産の喪失

（課題）農林業体験教室などの企画を通じ農林業のファンづくりを行う。

（３）食文化

（問題）食文化の後継者不足による知的財産の消失

（課題）日本料理、イタリア・フランスなどの西洋料理、中華料理など、調理師として食育インストラクターとして幅広く研究し食文化を伝える活動を行う。